

# 福岡市【福岡県】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成31年3月 ■人口：1,583,101人 ■市域面積：343.46km<sup>2</sup>  
■担当課：福岡市経済観光文化局 文化財活用課（平成31年3月現在）



福岡市は、歴史文化基本構想として「福岡市の文化財の保存活用に関する基本方針」を策定した。本市は、海を通じた交流を軸にアジアの交流拠点都市として発展を遂げた2000年を超える歴史文化の重層性を特徴とする。本方針は、この歴史文化を語り、市民が過去から受け継ぎ、次世代に伝えたいと思う「もの」「ばしょ」「いとなみ」を文化財と捉え、これらを「知る」「守る」「活かす」取組みを通じ、都市の活力と魅力の創出をはかることを述べる。

## 5 歴史文化を表す つのキーワード

始まる-日本初、賑わう-都市、繋がる-往来、  
護る-戦と防衛、支え合う-都市と村々

### 課題

- ・地域の変容等がもたらす文化財の価値認識の変化への対応
- ・文化財のあり方の多様化への対応
- ・観光等の資源としての活用

### 保存活用方針

- ・文化財を「知る」「守る」「活かす」取組みサイクルの好循環化
- ・保存活用に関わる多様な主体の力の向上と連携推進

## 保存活用のための取組み

### 歴史文化エリアカルテの作成

歴史文化の重層性を可視化するため、市域内を15の歴史文化エリアに区画。各エリアの特徴を記し、歴史文化を表す5つのキーワードごとに受け継ぐべき「もの」「ばしょ」「いとなみ」を挙げるカルテを作成。広く共有し、保存活用の基盤情報として拡充させる。



### 歴史文化エリアごとの戦略

各エリアの現在のまちづくりの方向性や地域コミュニティの特性を踏まえ、歴史文化エリアの文化財の保存活用について、空間的な戦略を設定する。また、空間的な戦略に基づく企画の遂行上の戦略を設定する。



### 「知る」「守る」「活かす」取組のサイクルの構築

従来からの活動の蓄積をふまえ、「知る-より戦略的な調査研究の推進や効果的な調査成果の公開等-」、「守る-持続可能な保存管理や修理復旧等-」、「活かす-都市の魅力を上し、文化財を知る・守る主体の活力につなげる-」取組みの好循環をはかる。

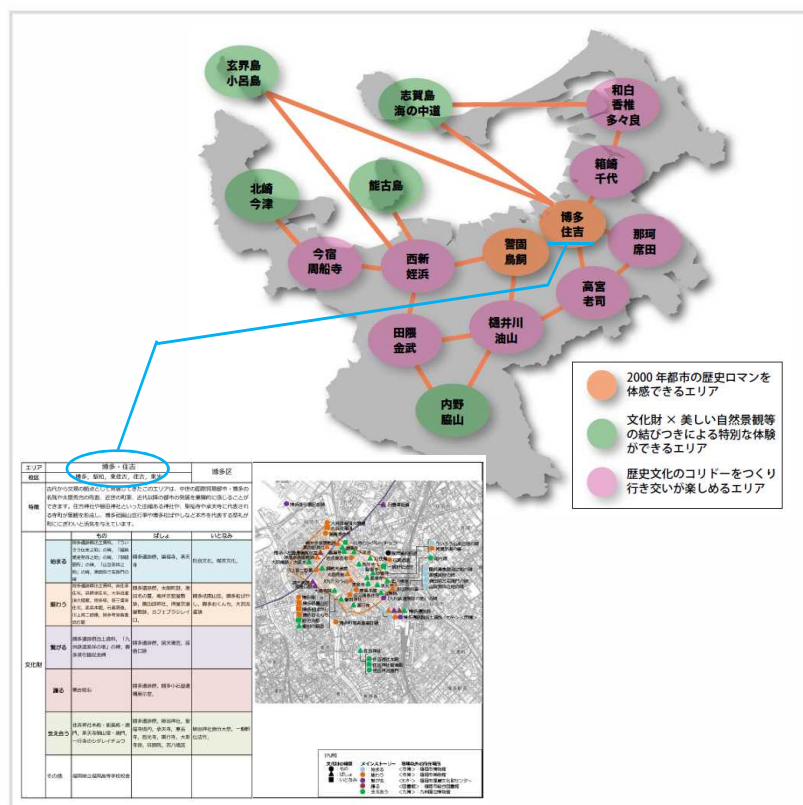


### 多様な主体による「知る」「守る」「活かす」

文化財の保存活用に関わる多様な主体について、期待される役割を提言したうえで、活躍の場の創出等を通じ、各主体の意識や技術力の向上をはかる。また、各主体が連携・協力できる体制を構築するために、横断的なネットワークづくりに取り組む。



## 歴史文化エリアとメインストーリー



本方針では2000年を超える歴史文化を、始まる・賑わう・繋がる・護る・支え合うという5つのメインストーリーとして示した。また、市域を15の歴史文化エリアに区画し、エリアごとにメインストーリーを構成する文化財をカルテ化した。また、エリアを文化財と周辺環境が構築しうる「都市の魅力」にそって3つに大別した。

### ストーリー

- 1 始まる  
福岡・博多のはじめてのものがたり
- 2 賑わう  
2000年の都市のにぎわい
- 3 繋がる  
人・物・情報を繋ぐ海陸空の結節点
- 4 護る  
国際交流都市の護りと平和への祈り
- 5 支えあう  
都市と村々の暮らしと信仰

## 策定後の成果（見込まれる効果）

### 歴史資源を活かす観光拠点の形成

歴史文化エリアカルテを作成したことで文化財と周辺環境が構築しうる「都市の魅力」が明確化し、戦略的に観光振興等の資源として文化財を活用でき、市域内に、2000年都市の歴史ロマンを体感できるエリア、文化財×美しい自然景観等の結びつきによる特別な体験ができるエリア等が創出される。



### 文化財への資源性の認識の高まり

文化財が「都市の魅力」に効果的につながるエリアが創出されることで、交流人口・関係人口の増加等の効果が生まれ、地域活性化がはかられる。結果、地域コミュニティ等で文化財の資源性の認識が高まり、地域の文化財を「知る」「守る」動機が世代を超えて保証される。



### 2000年都市の歴史文化の継承

文化財の活用により向上した「都市の魅力」がもたらす「活力」により、文化財を「知る」「守る」「活かす」取組みが好循環をなす。行政のみならず、市民、地域、文化財所有者、NPO、企業、教育機関といった多様な主体がこれら取組に参画し、文化財を継承していく地域総がかりの体制が構築される。

